

カンキツ「肥の豊」より果皮・果肉の橙色が濃い「聖秀」の品種特性

県内で発見され、平成29年に品種登録された「肥の豊」の変異系である「聖秀」は、「肥の豊」に比べ樹勢および果実品質は同程度であるが、果皮および果肉の橙色が濃い。特に加温栽培で色の差が大きく、「肥の豊」との違いが顕著であり、見栄えが良い。

農業研究センター果樹研究所常緑果樹研究室(担当者:三原 崇史)

研究のねらい

本県では、平成15年に「肥の豊」を品種登録し、平成29年現在、約450haが県内に普及している。そのような中、平成20年に屋根かけ栽培園において、「肥の豊」より果皮の橙色が濃い枝変わり(写真1、2)が発見された。

そこで、その枝変わり(品種登録名:「聖秀」)の品種特性を調査するとともに県内への普及の可能性を明らかにする。

研究の成果

<来歴>

平成20年に葦北郡津奈木町の屋根かけ栽培園において、「肥の豊」(ヒリュウ台木)の枝変わりとして発見された。「肥の豊」に比べ明らかに優位に果皮の橙色が濃かったことから、平成27年4月にJAあしきたより種苗法に基づく品種登録出願を行い、平成29年6月に品種登録された。

1. 原木(屋根掛け栽培)における収穫期(1月上中旬)の果実品質は「肥の豊」と同程度で、果皮および果肉は「肥の豊」に比べて橙色が濃い(表1)。着色開始期は「肥の豊」とほぼ同時期であり、着色開始期から橙色が濃い。
2. 樹勢は、「肥の豊」と同程度である(表2)。
3. 加温栽培における果実品質は「肥の豊」と同程度である(表3)。
4. 加温栽培、露地栽培ともに「肥の豊」に比べて果皮の橙色(a値)が優位に濃く、特に加温栽培での差が大きいことから、見栄えが良い(図1)。

普及上の留意点

1. 導入に当たっては、「聖秀」の特徴(橙色が濃い)を十分に発揮できる加温栽培での導入が有効である。また、樹勢は「肥の豊」と同程度に強いことから、「肥の豊」同様、ヒリュウ台木での導入が好ましい。



写真1 「聖秀」の果実



写真2 果実分析時の果実比較
(左:「聖秀」、右:「肥の豊」)

表1 原木における「聖秀」の果実品質(平成21年産~25年産の平均値)

品種名	果実重 (g)	果肉 歩合(%)	糖度 (Brix)	クエン酸 濃度(%)	糖酸比	カラーチャート値		果皮色	
						果皮色	果肉色	a値	a/b値
聖秀	319	75.9	12.7	0.97	13.2	8.7	8.0	24.8	0.36
肥の豊	326	75.4	12.9	0.96	13.4	7.2	7.3	20.9	0.29

※聖秀、肥の豊は同一樹(屋根かけ栽培ヒリュウ台木)。

採収日: H22年1月8日、H23年1月6日、H24年1月12日、H25年1月9日、平成26年1月14日。

表2 露地栽培における「聖秀」の葉と枝梢の形態

品種名	樹勢	春葉		春梢	
		葉身長 (cm)	葉身幅 (cm)	太さ (cm)	長さ (cm)
聖秀 (特性値)	強	7.7	3.22	2.82	14.2
肥の豊 (特性値)	強	7.83	3.27	2.8	14.2

注1) 2013年、2014年調査データ(露地栽培)

注2) 特性値: 品種登録出願の際の審査基準に基づく指標

表3 加温栽培における「聖秀」の果実品質(果樹研究所)

品種名	1果重 (g)	果肉 歩合(%)	糖度 (Brix)	クエン酸 濃度(%)
聖秀	373.5	78.7	13.1	0.91
肥の豊	375.7	78.4	13.5	0.90

注1) 通常加温における2か年(2018、2019)の2樹平均

注2) 2018年(採取 12月6日、調査 12月11日)、
2019年(採取12月2日、調査12月12日)

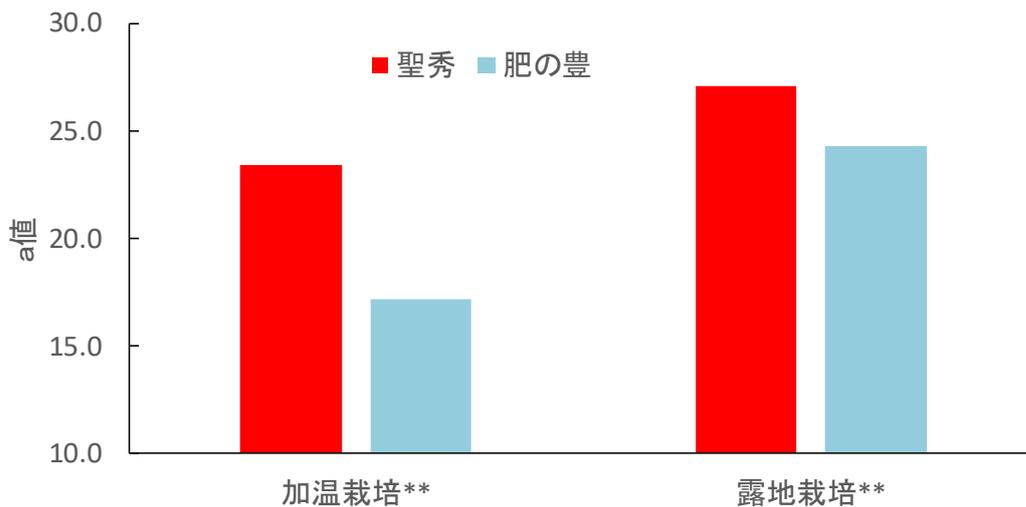


図1 加温栽培および露地栽培における「聖秀」の果皮色(a値)の比較

注1) **: t検定により1%水準で有意差あり

注2) 加温栽培 2018年度(採取:12月6日、調査:12月11日)、
2019年度(採取:12月2日、調査:12月12日)の2か年平均
露地栽培 2014年(採取:1月4日、調査:2月6日)の1か年